

〈小学校図画工作部会〉

研究主題 「魅力ある学習活動と個に応じた指導の充実」

研究の概要

図画工作科で身に付けるべき資質や能力を、目の前のすべての児童に育成するため、いかに授業改善を行っていくかは、まさに重要な課題である。

また、児童の「つくりだす喜び」の実感は、児童自身の様々な資質や能力を進んで働かせる原動力となる。

そこで、図画工作部会では、児童が表現及び鑑賞の活動に喜びや楽しさを実感しながら取り組むことのできる魅力ある学習活動を通して、児童の資質や能力が高められるような題材設定の工夫及び個に応じた指導の在り方について、授業による検証を行い実践事例としてまとめた。

I 研究の目的及び方法

1 学習活動において児童が学習の喜びを実感することを重視する

図画工作科で育成する資質や能力は、「造形への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」として、四つの観点で示されている。

これらの資質や能力を高め伸ばさせるとともに、それらが身に付いていく中ではぐくまれる、価値あるものに気付く感覚や、深く感じ取れるような感性、そして美しいものや崇高なものに感動する豊かな心の育成を図ることが、図画工作科の目標である。

これらの資質や能力は、個別に機能し高められるものではなく、相互に関連し合い働き合って高まるものと考えられる。

特に、表現及び鑑賞の活動における、児童が主体的・創造的に意味や価値をつくりだす喜びや、自分の存在を感じつつ、新しいものや未知の世界に向かう楽しさの実感は、児童自身のもてる力を進んで働かせる原動力となる。

そこで、今回の東京の教育21図画工作部会では、魅力ある学習活動を、

(1) 活動の対象や内容及び展開が児童にとって魅力あるものであり、「造形への関心・意欲・態度」を高め続けていく工夫がされていること

(2) 児童が、“自由さ”を実感しながら主体的・創造的に取り組み、自身のもてる力を十分に発揮できるような学習活動であること

ととらえ、検証授業を通し研究開発を行った。

2 魅力ある学習活動を通して四つの観点到示された児童の資質や能力を育成する

各学校の図画工作科の授業では、教科書を基にして児童の実態に合わせ、学校の立地環境や地域の伝統工芸等を活用し、多様な学習活動が行われている。

個々の学習活動の表面的な様相にとらわれてしまうと、児童の作品等の圧倒的な魅力の前で、その出来栄えのみにこだわったり、上手、下手で序列化したりするような作品主義的な指導と評価に陥ってしまう。

このような点からも、様々な題材を通してはぐくむ資質や能力を四つの観点到示に基づいて明確化し、様々な活動の実際における児童の学びの実現状況を四つの観点到示で把握し、指導の充実・改善を不断に図っていくことは極めて重要である。

そこで、今回の研究開発では、表現及び鑑賞の魅力ある学習活動を通して発揮される児童の力を、「造形への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」として把握し、その育成を意図的・計画的に図るための、個に応じた指導と評価の在り方について、検証授業を通し研究開発を行った。

II 研究の内容

《指導事例1》 「いいとこ、いいこと、わたしの場合」

(第4学年・A表現(1)B鑑賞(1)・全6時間)

1 題材の目標

段ボールで仕切られた空間をもとにイメージをふくらませ、その空間や材料の特徴を生かし、体全体の感覚や技能を働かせて造形活動することを楽しむ。

2 題材設定のポイント

本題材は、子どもたちの「つくりだす喜び」の実感を重視した題材である。

表現活動の対象となる空間(場所)及び材料の質感並びに活動の内容の面白さによって、児童の造形活動への関心や意欲を喚起することをねらいとしている。

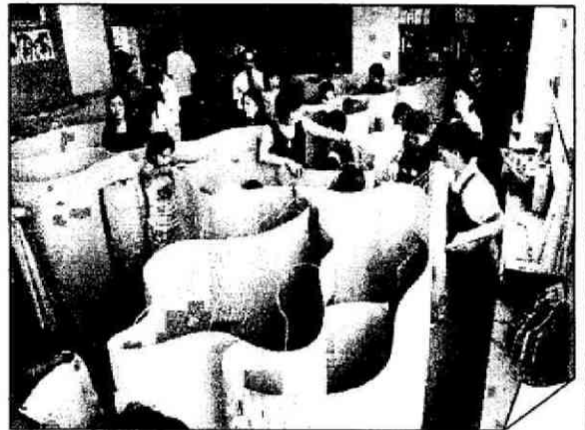
また、活動の過程で、友人の活動とかかわり合ったり、一緒に活動したりすることを通して、児童一人一人が創造的な能力を一層働かせることを重視し、児童同士の学び合いが積極的に行われることをねらいとしている。

(1) 段ボールの壁・空間・中に入るという活動

児童は、自分の体がすっぽり隠れるくらいの段ボール(ロール状)の大きな壁に囲まれ、自分だけの場所をもつことの安心感や、自分だけの活動の対象となる空間を得たことの喜びをきっかけにして、活動を展開していく。

そして、段ボールの壁や空間に自由に働きかけていく活動の面白さが、児童の造形への意欲を喚起し、もてる力を十分に発揮させ、ダイナミックな活動が展開されていく。

また、それぞれの空間は、完全に閉ざされたものではなく開かれた空間として、友人と共有したり、通路や窓で交流し合ったりする可能性を十分に有している。それによって児童の発想や活動は、一層広がりをもつ。自然なかたちで、互いの空間を訪問し合い、見合ったり話し合ったりしながら、新しいよさや面白さを思いつき、つくり変えつくり続ける。造形活動の後の相互鑑賞活動も含め、友人との学び合いや、お互いのよさを分かり合い伝え合う活動を通して、児童は、新しい意味や価値を獲得する。



(2) 段ボールという材料がもつ魅力と可能性

自在にカーブするロール状の片面段ボールは、児童が適度に抵抗感を感じながら、児童の思いを受け止めて変化できる素材である。色合いも質感も素朴で親しみやすい。

主材料の段ボールに合わせて、補助的な材料も紙類を中心として個性が強すぎないものを用意した。クラフト紙、画用紙、色紙、紙紐などである。

これらは児童の手になじみ、切る、ちぎる、揉む、貼るなど、扱いが様々に工夫できる材料である。

その他、粘着テープ、接着剤、段ボールカッター、描画材なども用意し、児童の要望に応じて使えるようにしておく。

また当然、自分ならこれを使いたい、あれを持って来たいという自然な発想が児童から湧き出てくる。これについては無理のない範囲で認め、自分が持って来たものも活用することで、児童の活動は、より広がり豊かなものとなる。



3 題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
段ボールで仕切られた空間をもとにイメージをふくらませ、体全体の感覚や技能を働かせて、進んで造形活動することを楽しみ、その喜びを味わおうとする。	段ボールで仕切られた空間や材料にかかわり、よさや面白さなど自分の感じ方を大切にして想像をふくらませ、豊かな発想をしたり、表し方を考えたりする。	材料や空間・場所の特徴を生かし、体全体の感覚を働かせて、思いのままにつくったり、つくり直したりしながら、表し方を工夫する。	友人のいろいろな表し方の違いを見付けたり、よさや面白さなどについて、感じたことを話し合ったりするなど、関心をもって見る。

4 指導と評価の計画

時	児童の活動	教師の働きかけ及び留意点	学習活動における具体的評価規準(評価方法)
1 ・ 2	<p>大きな長い段ボール、どんなことができるかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 段ボールを使って自分の場所をつくることを知る。 ○ 材料に触れ、特徴などに気付く。 <p>段ボールで『いいところ』をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班に分かれて、ロール状の段ボールを立て、全体の形をつくり、それぞれの自分だけの場所を決める。 	<p>「大きな段ボールでしょう」 「曲げたり折ったりして立てられるね」 「この中に入ったらどんな感じだろう」</p> <p>⇒曲げ方や立て方について実際に示すなど、さまざまな発想を引き出せるように、働きかける。</p> <p>「段ボールを立ててみよう」 「気に入ったところが自分の場所だよ」</p> <p>⇒みんなで協力して段ボールを立てられるように声をかける。 ⇒床への固定などを手伝う。 ⇒一人一人が、気に入った場所を必ず持つるように配慮し、意欲をもって活動できるようにする。</p>	<p>活動の導入段階では、児童が、わくわくしながら活動の楽しさを実感し、思いをふくらませ、活動のイメージが広がっていくような、働きかけが重要となる。</p> <p>【ア①】自分の思いをふくらませて、段ボールを動かしたり形を変えたりしながら、自分らしい空間をつくらうとする。(観察)</p>
	<p>高橋</p> <p>活動場所見取り図 ●E</p> <p>●=児童 段ボール ↓</p>	<p>児童の活動場所の見取り図を作成し、児童の活動状況の把握と指導に活用する。</p> <p>また、授業の終わりに段ボールをたたまなければならない場合は、次時に、見取り図をもとに復元する。</p>	

<p>1 2</p>	<p>自分の場所に入って みよう、どんなことを してみたいかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個別の場所に入り、 してみたいことを考 えたり思い付いたり する。 ○ イメージをふくらま せてつくる。 ○ 材料や用具を生かし て楽しくつくる。 ○ 様々な表現を試した り工夫したりする。 	<p>「入るとどんな感じがするかな」 「そこで何をしようかな、考えてやっ てみよう」</p> <p>“造形遊び”は児童の資質や能力を十分 に働かせ、造形的な創造活動の基礎的な力 を育てることをねらいとした、“遊び性”を 生かした学習活動として構成されている。 児童が、「活動させられている」という束 縛感や強制感などをもたないで、学習活動 に“遊び”のもつ自由さを実感しながら 主体的に取り組む。 このような“実りある自由な活動”を成 立させるためには、教師の適切な子どもへ の働きかけ（指導）が、何よりも重要とな る。</p>	<p>【ア②】段ボールで仕切 られた空間をもとにイ メージをふくらませ、体 全体の感覚や技能を働 かせて、造形活動するこ とを楽しむ。（観察）</p> <p>【イ①】段ボールで仕切 られた空間の特徴や材 料などから想像をふく らませ、よさや面白さな ど自分の感じ方を大切 にして自分らしい活動 を思いつく。（観察）</p>
<p>3 4</p>		<p>「授業の終わりに段ボールをたたむか ら、厚みのある物を貼ったり、段ボール の壁をつなげたりする場合は、最後の時 間にしよう」 ⇒安全に十分気を付けてつくるよう に促す。 ⇒材料や用具は、児童が身近に感じられ るもの、使ってみたくなるものを、数 量や色合いを考えて用意し、使いやす い置き場所を工夫する。 「どんな材料がいいかな」 「いろんな方法があるね、たくさん試し てみよう」 「友達とつながってもいいよ」 「使いたいものがあれば、家から持って 来てもいいよ」</p> <p>活動の様々な段階で… 児童の活動の様子から、また、一人一 人の声を聞きながら、共感的に児童の活 動や思いを理解し、活動がさらに創造的 に進むように、一人一人の課題に応じて 指導を工夫する。</p> 	<p>【ウ①】材料や空間・場 所の特徴を生かし、体全 体の感覚を働かせて、表 し方を工夫する。（観 察）</p> <p>【ア②】段ボールで仕切 られた空間をもとにイ メージをふくらませ、体 全体の感覚や技能を働 かせて、造形活動するこ とを楽しむ。（観察）</p> <p>【イ②】友人の活動とか かわったり、一緒に活動 したりする中で、新しい 活動を思い付いたり、表 し方を考えたりする。 （観察）</p> <p>【ウ②】材料や空間・場 所の特徴を生かし、つくり 直したり、新しい表し 方を取り入れたりしな がら、表し方を工夫す る。（観察）</p>
<p>5 6</p>	<p>みんなで見合おう、 こんなことがあった よって話してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友人の活動を見たり、 自分の場所に 招待したりする。 ○ 感じたことや気付 いたことなどを発 表する。 ○ ワークシートに感 想を書く。 	<p>「見せたり、見せてもらったりしよう」 「どんなことしたのか発表しよう」 「気付いたことや思ったことを書いてお こう」 ⇒一緒に遊ぶことから、よさや面白さに 気付くことが多いので、子どもの気持 ちに添って楽しく活動を展開する。 ⇒発表の場を設け、それぞれの活動のよ さや面白さについて、みんなで認め合 うようにする。</p>	<p>【ア③】自分や友人の活 動に関心をもち、よさや 面白さなどを感じ取る うとする。</p> <p>【エ②】友人の活動のよ さや面白さなどを見付 けたり、感じたことを話 し合ったりするなど、関 心をもって見る。 （観察・ワークシート）</p>

5 十分満足できる状況 (A) と判断した具体的な事例

Aの状況を実現していると判断するには曖昧なとらえ方ではなく、評価規準に示された資質や能力を、総合的に、関連的に、主体的に、継続的に働かせている状態が把握されなければならない。

児童EとNの活動場所は、「活動場所見取り図」を参照

	学習活動における具体の評価規準	十分満足できる状況 (A) と判断した具体的な例
Eの例	ア② 段ボールで仕切られた空間をもとにイメージをふくらませ、体全体の感覚や技能を働かせて、造形活動することを楽しむ。	自分の思いや意図に合わせて、材料や表し方を選び、自分が納得いくまで試みようとするなど、つくり、つくり変え、つくり続けようとする。
	イ① 段ボールで仕切られた空間の特徴や材料などから想像をふくらませ、よさや面白さなど自分の感じ方を大切に自分らしい活動を思いつく。	色紙やクラフト紙を中心に、様々な材料の組み合わせや生かし方を考えながら、大きな紙を使ったカーテンをつくることを思い付き、自分の表わしたい思いに基づいて、表し方を考える。
	エ② 友人の活動のよさや面白さなどを見付けたり、感じたことを話し合ったりするなど、関心をもって見る。	自分らしい見方や感じ方で、友人の活動の意図や特徴について具体的に取り上げ、そのよさや面白さについて話し合ったり発表したりする。
Nの例	ア② 段ボールで仕切られた空間をもとにイメージをふくらませ、体全体の感覚や技能を働かせて、造形活動することを楽しむ。	自分の思いや意図に合わせて、材料や表し方を選び、自分が納得いくまで試みようとするなど、つくり、つくり変え、つくり続けようとする。
	ウ① 材料や空間・場所の特徴を生かし、体全体の感覚を働かせて、表し方を工夫する。	紙紐を2、3本束ねた色合いを考えながら、結んだときにできる形を工夫し、素敵な飾りになるように、つくり、つくり変え、つくり続ける。
	イ② 友人の活動とかかわったり、一緒に活動したりする中で、新しい活動を思い付いたり、表し方を考えたりする。	隣の場所の友人と、共有する壁の窓の開け方、窓の形などについて、よりよいものになるように話し合い、その表し方のために、次々に新たなことを思い付く。

6 努力を要する状況にあると判断される児童への指導の具体的な方法と児童の変容

児童Zの活動場所は、「活動場所見取り図」を参照

<Zの例>

活動の当初、【ア①】自分の思いをふくらませて、段ボールを動かしたり形を変えたりしながら、自分らしい空間をつくろうとする。の評価規準において、努力を要する状況にあると判断される児童

この児童は、自分の表現に自信をもつことがなかなかできないため、作品や活動についてみんなに紹介することはほとんどなく、「もっと楽しくしたい」というような意欲をもてず、「こうしたら？」という友人の意見にも素直に耳を貸すことができなかった。

また、活動の途中で行き詰ると、「もうできたからいい」と言って、納得いくまで追求しようとしなない場面が多く見られた。

この題材のロール状の大きな段ボールという材料は、すべての児童にとって初めてのものであり、この材料の面白さは、Zに関心をいだかせることにも効果をあげた。

しかし、Zは、一人一人の活動場所を決める班の活動の輪に入っていけない。面白そうに眺めているが、一定の距離を置いている。

そこで、教師が、段ボールで筒状の壁をつくり、その中に入り、Zを招き入れた。Zは、体ごとすっぽり入ってしまうほどの大きさにびっくりした様子で、筒状の段ボールの壁がくねくね曲がって、形を変えることを面白がった。そして、活動に意欲的になり、みんなと一緒に場所を決めることができた。自分から進んで段ボールに触ったり、形を工夫したりする様子が見られた。

中に入っていると、いろいろな想像がふくらんでくるのが楽しいらしく、「こんなことできるなんて楽しい」と、声はずませている。

自分の発想に自信がもてるように、「どんなことが思い浮かんだ？どんなことをしてみたい？」と声をかけ、Zの思いを共感的に受け止め、面白さやよさをほめ、その表現の仕方について相談に乗ると、にこにこしながら材料を集めたり、道具を持ってきたりするなど忙しそうに、時間がいくらあっても足りない様子であった。

《指導事例2》 「光のゲイジユツ」 (第5学年・A表現(2)B鑑賞(1)・全10時間)

1 題材の目標

様々な光の美しさや面白さに気づき、それらを生かし想像をふくらませて、創意工夫して表現することを楽しむ。

2 題材設定のポイント

本題材では、A表現(1)「造形遊び」の要素を積極的に取り入れ、また、B鑑賞(1)と合わせて、一連の活動として設定する。

まず、様々な光を鑑賞し、それをヒントに発想をひろげ、いろいろな材料を使った「造形遊び」を行う。

次に、その体験をもとに、光の美しさや面白さを生かしながら作品の製作を進め、ときには、教室を暗くすることで鑑賞の時間をとりながら、さらに製作を続け、最後に「光の展覧会」で鑑賞の時間を設け、活動を振り返る。

児童にとって魅力ある素材である光を使い、また、児童一人一人の実感を重視した活動のプロセスを工夫することによって、子どもたちの関心・意欲を高め続け、その能力を十分に発揮させることをねらいとした。

(1) 光について

何種類かの光源を用意する。

電球、LED(発光ダイオード)、ブラックライトなど多様な光を積極的に活用する。

また、光は、発光、透過、投影、など、様々な要素を活用して表現することが可能である。

これらのことにより、児童が、光の多様な美しさや面白さを実感しながら活動を進め、発想がより広がり、もてる力が十分に発揮されることが期待できる。

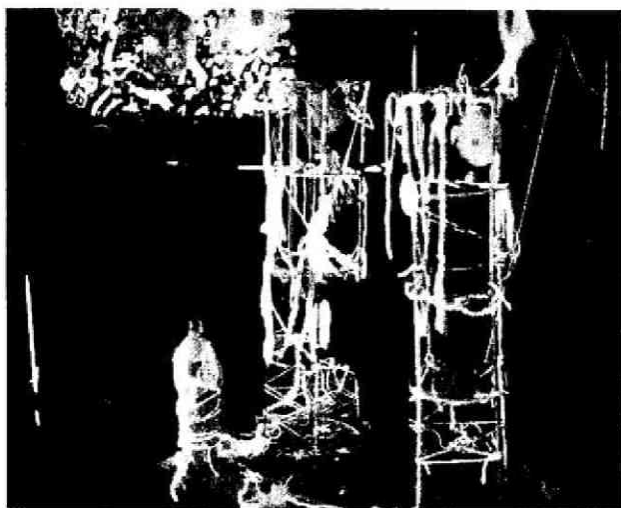


(2) A表現(1)「造形遊び」及びB鑑賞(1)との関連

光は、材料・環境との組み合わせの中で刻々と変化し、児童はその経験の中で美しさを発見する。様々な光の美しさや面白さは、日常生活で実感されている部分はあっても、その多様性については、未経験な場合が多い。

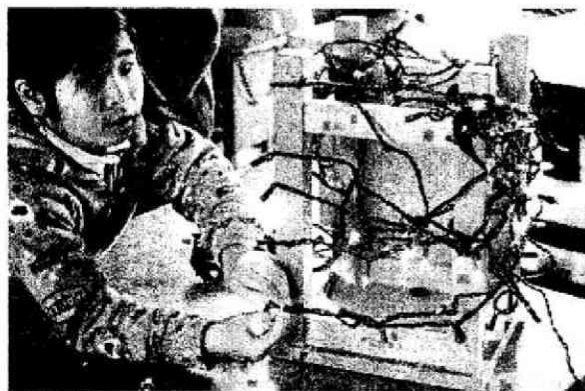
まず、光という素材を、児童がじかに体験する「造形遊び」を行う意味はここにある。

また、表現活動(新しい意味や価値をつくりだす活動)と鑑賞活動(新しい意味や価値を獲得する活動)を積極的に関連付け、意図的、計画的に設定することにより、両活動にかかわる創造的な能力を伸ばし、偶然の児童同士の学び合いだけに依存することなく、実り豊かな学び合いが実現できると考える。



3 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	様々な光の美しさや面白さに気づき、それらを生かし想像をふくらませて、創意工夫して表現活動する喜びを味わおうとする。	様々な光の美しさや面白さから想像したことなどをもとに、表したいことを発想し、デザインの能力などを働かせ、自分の選んだ材料の特徴なども生かして表し方を考える。	表したいことに合わせて、光などの材料や構成の美しさなどの感じを考え、造形感覚や創造的な工作の能力を働かせて、表現に適した方法を組み合わせ、表し方を工夫する。	自分らしい見方や感じ方で鑑賞し、友人の作品の表現の意図や特徴をとらえ、よさや美しさを感じ取ったり、味わったりする。
光で遊ぼう	①様々な光の美しさや面白さに気づき、それらを生かし楽しい造形活動しようとする。	①よさや美しさなどの自分の感じ方を大切にして想像をふくらませ、表し方を考える。		
「光のゲイジユツ作品」をつくらう	②様々な光の美しさや面白さを生かし想像をふくらませて、表し方を工夫するなど創造的に表現しようとする。 ③友人の表現との交流などをきっかけとし、新しい発想を目指したり表し方を工夫したりするなど創造的に表現しようとする。	②様々な光の美しさや面白さから想像したことなどをもとに表したいことを発想し、材料や用具を選び、表現方法を試したり、やり直したりしながら表し方を考える。 ③友人の表現との交流などをきっかけとし、新たな発想を加えたり、様々な表現方法を組み合わせたりするなど、表し方を考える。	①表したいことに合わせて、光などの材料や構成の美しさなどの感じを考え、つくり、手を加えてつくり変えながら、表し方を工夫する。 ②光などの材料や用具の特性を生かし、造形感覚や創造的な工作の能力を働かせ、新たなものを加えたり、部分を取り換えたりするなど、表し方を工夫する。	①自分らしい見方や感じ方で鑑賞し、友人の作品の表現の意図や特徴をとらえ、よさや美しさを感じ取る。
「光の展覧会」しよう	④自分や友人の活動に関心を持ち、よさや美しさなどを感じ取り、味わおうとする。			②自分らしい見方や感じ方で鑑賞し、友人の作品の表現の意図や特徴をとらえ、よさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深める。




4 指導と評価の計画

児童の発言

「教師の指導の言葉」【意図した観点】

時	児童の活動	教師の働きかけ、指導上の留意点	評価 規準
1	<p>光で遊ぼう</p> <p>○様々な光源を近くでじっくり見たり、光の効果を楽しんだり、素材に触れたりする中で、光を使った表現活動に対する興味・関心をもつ。</p> <p>ブラックライトの光って本当に不思議だね。</p> <p>電球ってきれいだね。光があたってきれに見えるものを集めよう！</p> <p>私は透けてきれに見えるものを集めて作品にしたいな。</p>	<p>*各種電球、LED(発光ダイオード)、ブラックライト、蛍光材料(シール、毛糸など)、色セロファン、画用紙、薄葉紙、グラシン紙、ビニル袋、アルミホイル等を用意する。</p> <p>「今日は初めに、光を使っていろんなことを実験します。 暗い中での光と材料の見え方を、じっくり観察してみてください。どんな組み合わせがきれに見えるかな？」【発想・構想の能力】</p> <p>*電気の扱い、電球等の発熱の注意について徹底する。 *暗い中での安全な活動の在り方について指導する。</p> <p>多様な光による効果の違い、発光、透過、投影などの様々な要素、材料による光の効果の変容等について広く体験できるように、適宜、様々な方法を示したり、個々の活動を全員に紹介したりする。 ⇒児童が自らの判断で、材料や表し方を選ぶことができるように</p> <p>「今度の授業では、「光のゲイジユツ作品」をつくります。今日見つけたこと、感じたことをヒントに、いろいろな材料を集めてみてください。先生も使えそうな材料を集めておきます。」</p>	<p>ア① イ①</p>
2 ・ 3 : 9	<p>「光のゲイジユツ作品」をつくろう</p> <p>○持ってきたものを机の上に並べる。 例・・・懐中電灯、フィルムケース、ペットボトル、装飾用電球、卵のパックなど。</p> <p>ペットボトルやアルミホイルを持って来たよ。 いろいろ組み合わせてきれいな光のゲイジユツ作品にしよう。</p> <p>○集めてきた材料、教師が準備したものを組み合わせ、光の見え方を考え、計画カードにアイデアスケッチをする。 ○様々な材料に直接触れながら、アイデアスケッチをする。</p>	<p>*教師の準備・・・前時に準備したものに加え、多様な蛍光塗料、針金、木材、接着剤など</p> <p>「皆さん、いろいろ集めてきましたね。 計画カードに少しずつアイデアを記入してってください。イラスト・文章どちらでもいいですから、考えたり思い付いたりしたことを、どんどんかいてみましょう。どうしたら光の美しさを生かせるかを考えながらかいてください。」 【発想・構想の能力】</p> <p>児童が、自分らしい判断や表し方を考え出せないでいる場合は、思いをよく聞き受け止めながら、一緒になって考えたり、複数の例を示し児童が選択できるようにしたりするなど、指導を工夫する。</p>	<p>ア② イ② ウ①</p>

<p>* アイディアスケッチができたら、製作に入る。</p> <p>* 明るい状態で作業し、適宜、教室を暗くして自分や友人の作品を鑑賞する。</p> <p>* 途中、新たな発想を加えたり、様々な表現方法を、新たに組み合わせたりしたら、後で計画カードにメモする。</p>  <p>この電球を使ってこんなにきれいにできるなんて、知らなかったよ。これを、作品に使ってみよう。</p> <p>はじめの計画では、赤い電球を使おうと思ったけど、いろいろな色の光を使うことにした。</p>	<p>* 電気の扱い、電球等の発熱の注意について徹底する。</p> <p>「光の美しさを生かして、色や形を工夫して作品をつくろう。暗い中では見えなくても、柱になるような部分も大切だよ。」【創造的な技能】</p> <p>* 活動の様子を、できるだけ多くデジタルカメラで撮影し、振り返りの材料にする。</p> <p>ここの見え方がきれいじゃないな。全体がなんだか壊れそうだな。もっとしっかりつくらなくちゃ。</p> <p>アイディアスケッチの通り、針金で心棒をつかって、クリスマス電球を巻き付けよう。電球は思ったより長かったから、全体のかたちは大きくしよう。</p> <p>《相互鑑賞活動を通して》</p> <p>「素敵なアイデアがたくさんありますね。他の人の作品をヒントにして、気付いたことなどをもとに、新しいアイデアを加えたり、つくり方を工夫したりして、自分の作品をもっと素晴らしいものにしよう。」</p> <p>【発想や構想の能力】【創造的な技能】</p> <p>児童一人一人が、納得いくまで表現を追求できるよう、個別に指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が、自分の表現に自信をもち、自分らしさを発揮できるように ○児童が、自分の表したいことに合わせて、さらに表現方法を工夫できるように ○友人の作品を見て気付いたことなどを自分の表現に生かすことができるように <p>《結果を急がずに児童一人一人の学びのプロセスを大切に、個に応じた指導の充実を図る。》</p>	<p>エ①</p> <p>ア③</p> <p>イ③</p> <p>ウ②</p>
<p>10 「光の展覧会」をしよう</p> <p>* 自分や友人の作品をあらためて鑑賞しながら、活動を振り返る。</p> <p>こうやってみんなの作品を見ると、また別の見方ができるね。</p> <p>* 振り返りカードに、自分の作品について、友人の作品について記入する。</p>	<p>「今日はみなさんが取り組んだ「光のゲイジユツ作品」の鑑賞をしましょう。</p> <p>まず、お互いの作品を見る時間をとります。そのあと、友人の作品の素敵だなと感じたところなどを発表してもらいます。」【鑑賞の能力】</p> <p>* 活動の様子や作品についてデジタルカメラで撮った画像をスライドで見せて、お互いの活動を振り返る機会も設ける。</p>	<p>ア④</p> <p>エ②</p>

5 学習活動に即した評価カードの例

特筆すべき状況については必ず記録する。

「光のゲイジツ」活動の記録		5年 ○ 組 氏名○○ ○○		
	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
活 動 の 記 録	①様々な光の美しさや面白さに気づき、それらを生かし楽しい造形活動をしようとする。 A 光の表現の面白さに	①よさや美しさなどの自分の感じ方を大切に想像をふくらませ、表し方を考える。		
	②様々な光の美しさや面白さを生かし想像をふくらませて、表し方を工夫するなど創造的に表現しようとする。 A 自分の思いに合わせて、材料や表し方を工夫し、納得いくまで試み、つくり変え・つくり続けようとする。	②様々な光の美しさや面白さから想像したことなどをもとに表したいことを発想し、材料や用具を選び、表現方法を試したり、やり直したりしながら表し方を考える。	①表したいことに合わせて、光などの材料や構成の美しさなどの感じを考え、つくり、手を加えてつくり変えながら、表し方を工夫する。	
	③友人の表現との交流などをきっかけとし、新しい発想を目指したり表し方を工夫したりするなど創造的に表現しようとする。 A 友人の表現から、光などの材料の特性の生かし方や表現方法の工夫について、一生懸命学び取り、自分の表現に生かそうとする。(○月○日)	③友人の表現との交流などをきっかけとし、新たな発想を加えたり、様々な表現方法を組み合わせたりするなど、表し方を考える。 C 集めた材料に固執し表現が行き詰まり困っている様子。 B 様々な表現の面白さについていくつか紹介すると、友人の表現から、ブラックライトを使うことに変更。やりたいことが見えてきた。(○月○日)	②光などの材料や用具の特性を生かし、造形感覚や創造的な工作の能力を働かせ、新たなものを加えたり、部分を取り換えたりするなど、表し方を工夫する。 A 主たる光源や構想を変更したため、始めからやり直し、暗くしたときの、光があたった対象物の色合いや形の微妙な調整を行い、納得いくまで表し方を工夫している。	①自分らしい見方や感じ方で鑑賞し、友人の作品の表現の意図や特徴をとらえ、よさや美しさを感じ取る。
	④自分や友人の活動に関心をもち、よさや美しさなどを感じ取			②自分らしい見方や感じ方で鑑賞し、友人の作品の
評価	A	B	A	B
所見	大変熱心に取り組むことができました。材料集めでは身の回りで使えそうなものを熱心に集めていました。途中、その材料を使うことに気を取られ発想を転換させるまでに時間がかかりましたが、ねばり強く工夫し最後には納得のいく作品にすることができました。			

III まとめ

文部省小学校教育課程一般指導資料(平成5年)には、「基礎・基本を子供たちが自ら獲得し、それを創造的に生かしながら、人間らしく豊かに生きていくことができる資質や能力になるように身に付けることが大切である。」と示されている。

図画工作科ではぐくむ、「新たな着想や新しい見方に気づき、自分らしい判断や表し方を主体的・創造的に考えだす力」「表したいことを表すために、表し方を工夫する力」などの創造的な諸能力、豊かな感性や情操は、日常生活の中で「生きる力」として、美しさやよさを求める心や行為となって表れる力である。人が身の回りの環境と豊かに交流しながら、新しい意味や価値を創造し、心豊かな生活や人生をつくりあげていくための重要な力である。

そのような重要な力の基礎・基本となる、評価の四観点により分析的に示された資質や能力をすべての児童に育成するために、題材の設定や指導の在り方を常に工夫・改善しなければならない。

図画工作科の、児童が主体的・創造的に取り組む学習活動において、児童は真剣に考え、ときには悩みながら活動に夢中に取り組む。児童自身のもっている様々な知識や技能、経験等を生かし、それらの要素を再構成したり拡大したりして、学習活動に取り組む。このようにして、様々な資質や能力が発揮され、働かされ、高められる。そして、創造的な喜びや充実感を心から実感する。このような実りある学習活動の実現こそが重要なのである。